

週日の説教（初金・癒しのミサ）

金 大烈 神父 2010年7月2日（金）

《イエス様の呼び掛け》

主の平和

今日の福音(マタイ 9・9-13)の最後の御言葉に目が止まりました。『わたしが来たのは正しい人を招くためではなく、罪びとを招くためである。』皆様はどう思われます？ そうだと思いますか。(はいと皆が答えました)では皆様も皆、罪びとであることを認めますか。(はい)これが基本です。イエス様はこのようにおっしゃりながらご自分の御旨を現したのですが、この世の中で罪がない人は、一人もいないことをはっきりと教えているのです。

さあ、イエス様は徴税人のマタイという人に声をかけました。その人は収税所にいたのではたね。いわゆる税関でお金を儲ける事務所です。この人は自分の仕事に没頭し熱心な姿を見せている人でした。このマタイが象徴する、思い起こさせることは何でしょうか。簡単に言いますと色々な仕事、色々な遊び、色々な欲望にはまっている、この世の中の私達の姿を象徴していると私は思います。

さあ、その人にイエス様は手を伸ばしますよね。『わたしに従いなさい』と。これは呼び掛けです。そしてもう一人の人にもイエス様の呼び掛けがあります。誰にでしょうか。「自分は罪がなくて、信仰心も深く熱心に生きています。しかし何故あの方は罪びとと交わっているのか」と、間違えて思っている人々にもイエス様はただ批判するだけではなく、しかることだけではなく、その人々をも招こうとしているわけです。結局、イエス様が語られる全ての話は、誰にでも当てはまる話です。ですから熱心な気持で信仰の生活をしていると言いながらも傲慢に陥っている人、自分には罪がないと錯覚している人、そしていつも口だけで神様を賛美しながら、小さいものにも貧しいものにも手を伸ばそうとしない人、全ての人々にイエス様は呼び掛けていらっしゃることを意識しなければなりません。これが、私達がよく陥る落とし穴です。例えば、自分の基準とした生き方を、上手くしない人を見たら先ず腹がたちます。そして、近づいて行きたくない気持になって、何故そのような生き方するのかと冷たい目、何か悪口でも言いそうになってしまいます。しかし、その裁く役割は結局イエス様ものです。神様のものです。私達にはそのような攻める気持さえ許されていません。

さあ、皆様今日の福音を通してもう一回考えてみましょう。私達はいつも絶え間なく呼び掛けられています。今の瞬間も、もっと分かりやすく説明しますと、皆様がこのミサに与かっていることも、実際に呼び掛けによって、「はい」とこのマタイが見せたくれた、直ぐ立ち上がって「イエスに従った」という言葉のように皆様も応えて、こちらに来られたと思います。その気持が信仰です。どちらかに私達は属しています。救われなければならない場所、空間、時間の中からイエス様が「早く出てほしい、私についてきなさい」とおっしゃっているその言葉を、私達が聴くことが出来れば、一番幸いな信仰生活に入るのではないかと思います。

さあ皆様、昔イスラエル人は「色々な病気の原因は罪のため」だと思いました。現代に生きている私達の感覚では、そんなふうに間違っている考え方を「イスラエル人の人々は気の毒だったなあ」と思うかも知れません。しかし、今日の福音を通してよく考えて見ますと、結局私達は「生きている間は完璧に罪から解放されないし、色々なことによって罪の中に生きる方法しかない」と認めるなら、昔イスラエル人が「さまざまな病気の原因は罪から来る」と考えたことを間違いだとは言えないでしょう。

ですから皆様、大事なポイントがここにあります。信仰の面で全体的にみることが出来れば、結局、私達が癒されることは何よりも体より心である事です。その心は色々な傷によって、罪も関わりによって生じた傷であれば、私達が体も心も癒される事は、罪から開放される事と全く同じではないかと、その信仰的な結論まで行かなくてはなりません。色々な難しさや色々な痛みは、結局私達が自由になるためです。その自由とは罪の反対、罪からの解放であることをもう一回考えて見ましょう。

皆様、私達はただ自分の罪だけではなく、色々な人々の罪、そして私達が愛する人々の罪によっても、痛む心を持つことを意識しましょう。祈りましょう。

ありがとうございました。